



広報

ななほ

市民の友

第769号毎月1回発行

2015年(平成27年)

2月

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2014(平成26)年12月末現在	
総人口	323,184 (2,897)
男	156,541 (1,644)
女	166,643 (1,253)
世帯数	144,291 (1,737)

発行：那覇市
 編集：秘書広報課
 〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
 ☎(代表)867-0111
 印刷：有限会社サン印刷

いつまでも安心して
暮らせる地域を目指して

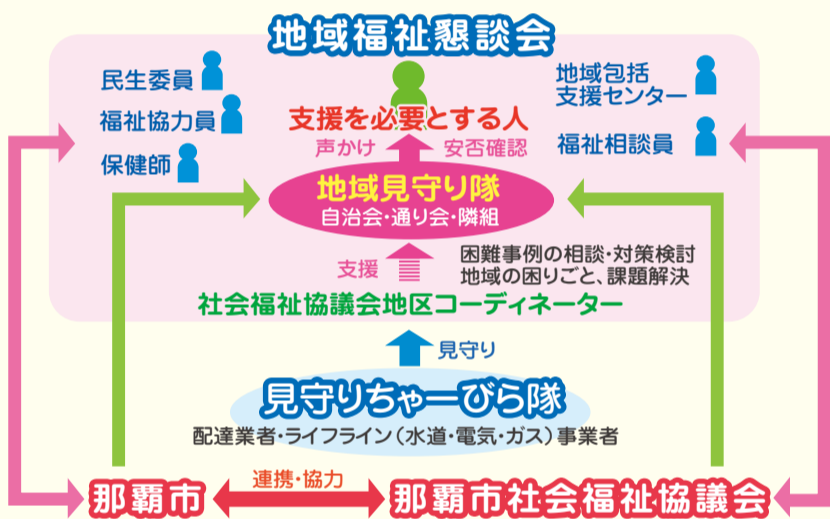
『地域見守り隊』



住み慣れた家と地域で、いつまでも安心して暮らしたいという願いを支えるため、市では、誰もが社会との「絆」を感じながら、安心して生活できる住民参加による地域づくり「安心生活創造推進事業」を実施しています。

この事業の一環として、本年度より地域での「地域見守り隊」の結成を進めています。「地域見守り隊」は、住民の社会的な孤立を防止するとともに、お互いのつながりにより心豊かな居場所をつくっていきます。

地域の支え合いのしくみ



地域見守り隊とは

「地域見守り隊」は、自治会や通り会などの地域団体が、その地域の「要援護者」(高齢者や引きこもりがちな人など、何らかの支援を必要とする人)の見守りを目的に結成する組織で、主に次のような活動を行います。

【主な活動】

- 1 平常の遠巻きの見守り
- 2 普段から声をかけ要援護者の孤立を防ぐ
- 3 安否確認のための定期的な訪問
- 4 問題があれば民生委員児童委員や行政への連絡等を行い、早期の支援を可能にする
- 5 地域に「ふれあいサロン」などの居場所を作り、孤立しがちな人を誘う

「地域見守り隊」の活動により、日常生活での異変や問題を早期に見つけることができ、また、市役所や社会福祉協議会などの関係機関と連携することで高齢者の孤立死といった事故も未然に防ぐことができます。

真地団地自治会 「個食」が「孤食」にならないように!



眞榮城 嘉政会長

毎週金曜日のお昼時になると、地域みんなが集まって、ユンタク(おしゃべり)しながら、美味しいランチを食べているのが、真地団地自治会の『百金食堂』。この食堂は、真地団地自治会が取り組んでいる地域のふれあいと見守り活動の一環です。なんと100円で美味しいランチを食べながら、地域のみんなと楽しめる憩いの場所となっています。

真地団地自治会の眞榮城 嘉政(まえばき よしまさ)会長は「団地に住む方も高齢化して、食事を一人で食べる、個食が進んでいました。これが孤独を感じてしまう、孤食につながってしまうのを防ぐのが食堂のきっかけでした」と話します。今年で5年目になるこの取り組みは、いまや色んな地域や自治会からも注目されていて、遠方からも多くの方が体験やお話を聞きに訪れるそうです。

また、自治会では、百金食堂以外にも見守り隊の活動として、要援護者などのお宅に「ボックスティッシュの詰め替え品」を定期的に持っていき様子を確認したり、「緊急医療情報キット」(緊急時に利用する情報が記載された用紙)を必要な方に配り、冷蔵庫などに置いておくことも行っています。



主な紙面

- 地域見守り隊……………1
- ヘルストリビューン……………2
- ほげんインフォメーション……………3
- みなさんのご意見をお持ちしています/環境トピック/その他……………9
- ニュース・ダイジェスト……………12
- 臨時非常勤職員募集!……………6
- 市県民税・国民健康保険税の申告/その他……………7
- 幼稚園保育料/一時預かり保育……………8
- 情報バック……………9
- 協働さん/博物館トピックス……………11
- うちなーぐちはあじくーた……………12

お問い合わせ

福祉政策課……………0902-90002
 那覇市社会福祉協議会……………0902-90002
 地域福祉課(地域福祉推進班)……………0902-77666

与儀市場通り 「見守られていた」だから「見守りたい」!



比屋定 喜代子さん

「人たちは高齢者となり独居されている方もいます。恩返しの意味でも、私たちが見守ってあげたい」と笑顔で語ってくれました。

地域の人がつながり、それを支える関係団体の人たちも集う「ふれあい・いきいきサロン」を平成20年に市内第1号で発足させた与儀市場通りのみなさん。商店通りで自治会という組織はありませんが、近隣のことを気にかけて、他人の困り事を自分の事として助け合う、信頼と愛情にあふれる、みなさんです。

与儀市場通りの比屋定喜代子(ひやじょうきよこ)さんは「この通りに嫁いで来て約50年になります。仕事と子育てで忙しい頃は、地域のみんなに子どもたちを見守ってもらいました。商店通りの人が『あなたの子どもを、あつちで見かけたけど?』などと教えてくれたり、子どもへの声かけもしてもらいました。そのお世話をしてくれた人たちは高齢者となり独居されている方もいます。恩返しの意味でも、私たちが見守ってあげたい」と笑顔で語ってくれました。

